

誠実さと技術力で自立をサポートする 医療・介護用ベッドメーカー

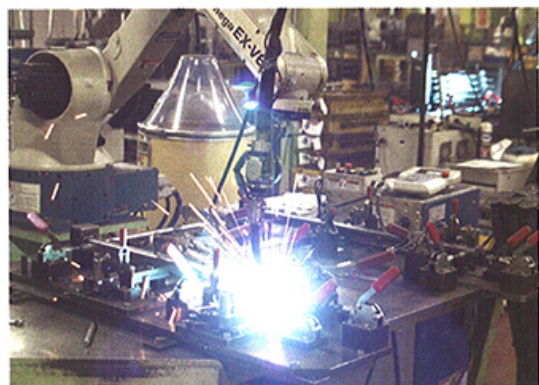


シーホネンス株式会社

ばね製造から
安全性を重視した
ベッド作りへ

医療・介護用ベッドの製造・販売を手がけるシーホネンス。この特徴ある社名は、英語の「sea horse（タツノオトシゴ）」と「honest（誠実さ）」を掛け合わせたもの。常に立った姿勢で生活をするタツノオトシゴをシンボルに、「一日も早い離床（回復・自立）を願ひ」、honest（誠実・正直）に「止むこと無く開発・研究を続ける」という意味が込められている。

昭和12年にはね製製作会社としてスタートした同社。劇場椅子や、自転車のサドル、またはベッドに使用されるスプリングの製造にはじまり、昭和44年頃からは、応接セットの仕入れ・販売、インテリアデザイン、住宅用ベッドの製造・販売を手がけるようになる。



本格的に医療用ベッドの分野に進出したのは昭和59年から。医療用ベッドは可動部分が壊れないことが大前提であり、同時に、使用者である患者と看護師の双方が使用しやすいことが求められる。同社では安全性を特に重視。従来はベッドを動かすモーターに、音も大きく万一の感電時には危険性を伴うACモーターを使用していたが、デンマーク製のDCモーターをいち早く採用。電圧も100Vから24Vに変更し、医療用ベッドにおける静音と安全性を確かなものにした。

医療用ベッドは「シーホネンス」、介護用ベッドは「ケブプロコ」と、それぞれにブランドを持つ同社。病院、老人ホーム等からの幅広い需要に対応する一方、透折用、小児科用等といった、診療科目別に特化した製品も数多く手がけている。

日本一早い 故障への対応を実施

増本忠次社長は、「医療・介護用ベッドは、機能面で差別化することが難しい」と話す。そこでシーホネンスが重視したのがアフターケアだ。365日24時間、常に気を抜けない状態が続く病院では、患者が体を預けるベッドに何か問題が発生した場合、早急な対応が必要不可欠となる。そこでボケベルや携帯電話等、最新の通信機器が出ることに、すぐに社員に持たせるようにし、いつでもどこにいても駆けつけることができる体制を構築した。また、ベッドの無償点検も頻繁に行い、「故障する前

の対処」も積極的に進んでいる。増本社長は「国の社会保険料の抑制もあるが、高齢者は増えていきます。医療・健康・福祉分野という柱は変わりませんが、例えば、人の生活を様々な形で補助するような、ベッド以外の製品を手がけていきたいと考えています」と語る。

主な事業内容

医療・介護施設の在動支製用電動ベッド、電話の製造・販売（生活の介護用ベッド）等
住宅用介護用ベッドの製造・販売等



増本忠次さん
代表取締役社長

Company Profile

シーホネンス株式会社

住所 / 〒537-0001
大阪府大阪市東成区深江北3-10-17
創業 / 昭和12年5月
設立 / 昭和32年3月
資本金 / 1億4,341万円
従業員 / 120名（平成21年1月現在）
TEL / 06-6973-3471
FAX / 06-6973-3440



<http://www.seahonence.co.jp/>